

令和七年度入学（秋季試験）

京都女子大学大学院 文学研究科 史学専攻

博士前期課程 入学選考試験問題

（東洋史）

（Ⅰ）（Ⅲ）すべてに解答しなさい。

解答用紙のみ提出すること。

*特に指定のない限り、日本語で解答すること。

解答は所定の解答用紙に記すこと。

(I) 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

梁元帝嘗為吾說。(一) 昔在會稽，年始十二，便以好學。時又患疥，手不得拳，膝不得屈，閉齋張葛幃，避蠅獨坐，銀甌貯山陰甜酒，時復進之，以自寬痛。率意自讀史書，一日二十卷，既未師受，或不識一字，或不解一語，要自重之，不知厭倦。帝子之尊，童稚之逸，尚能如此。況其庶士，冀以自達者哉。古人勤學，有握錐、投斧、照雪、聚螢、鋤則帶經、牧則編簡，亦為勤篤。(中略)(二) 義陽朱詹，世居江陵，後出楊都。好學，家貧無資，累日不爨，乃時吞紙，以實腹。寒無氈被，抱犬而臥，犬亦饑虛，起行盜食，呼之不至，哀聲動隣。猶不廢業，卒成學士，官至鎮南錄事參軍，為孝元所禮。此乃不可為之事，亦是勤學之一人。

(『顏氏家訓』卷上・勉學第八)

※会稽…地名。 疥…病氣の名。 葛幃…クズで出来た帳。 山陰…地名。

氈被…フェルト生地の掛け布団。 鎮南錄事參軍…官職名。

一、この史料の引用元である『顏氏家訓』の筆者は誰か。次の①～④の中から選べ。

- ①顏回 ②顏之推 ③顏師古 ④顏真卿

二、傍線部の文章(一)を書き下しにしない。(旧字は常用漢字に書き換えてもよく、仮名遣いも現代仮名遣いでよい。)

三、傍線部の文章(二)を現代日本語に訳さない。

(II) 次の文章の傍線部を現代日本語に訳しなさい。

（徐珂『清稗類鈔』帝德類）

(Ⅲ) 次の A・B の語群の中から、合計で三つの用語を選び、それぞれ説明しなさい。

なお、用語を選択するにあたり、必ず A・B の語群の中から、最低一つは選択すること。

また、解答用紙には選択した用語の語群と番号を記すこと。

【A群】

- ① 匈奴 ② 王羲之 ③ 興慶宮 ④ 靖康の変
- ⑤ サーマーン朝 ⑥ マドラス

【B群】

- ① ジュンガル
② 鄭和
③ 山海関
④ 済南事件
⑤ スエズ運河
⑥ レザールシャー

(I) の解答用紙

一、

二、

三、

受験番号 (

) 名前 (

)

(Ⅱ)の解答用紙

(Ⅲ)の解答用紙

一、A群 用語の番号..

受験番号 (

) 名前 (

)

二、B群 用語の番号 ..

三、
群 用語の番号 ..

受験番号 (

) 名前 (

)